

# 国語 第1学年 おはなしを たのしもう

## 検討会の想定問答

**指摘1：**この単元で身に付けることは何か。

**返し：**登場人物の行動を順に確かめ、どこで誰が何をしたのかを捉える。題名だけから約束の教訓を考えず、物語で起こったことを言葉や絵で説明する。C(1)イの学習として、誰が何をしたカード。場面の順に並べ、自分の言葉で出来事を説明する。

**指摘2：**何をもって学習できたと判断するか。

**返し：**おおむね満足できる状況は、場面の様子と登場人物の行動を確かめ、物語の内容の大体を捉えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)イの姿を本時の発言と記録に照らす。

**指摘3：**活動が楽しいだけで終わらないか。

**返し：**誰が何をしたカードを残す。場面の順に並べ、自分の言葉で出来事を説明する。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)イに関わる学習の中身を確認する。

**指摘4：**難しさのある児童にはどんな支援をするか。

**返し：**会話を言った人物を取り違える。自分の想像を本文に書かれた出来事と混ぜる。これについて、人物ごとに印を付け、行動を教科書の該当箇所で行かせる。短い場面を動作で表した後、何の言葉を基にした動きかに戻る。本文を見ずに自由な劇を続けない。〔知識及び技能〕(1)クとC(1)イを切り離さず扱う。

**指摘5：**考えが違ったときはどう扱うか。

**返し：**教師の結論を選ばせず、「この場面では、誰が何をしていますか。前の場面と比べると、どんなことが変わりましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)イに関わる根拠を話し合う。

**指摘6：**本時の評価で態度まで決められるか。

**返し：**本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

**指摘7：**端末がない学級でもできるか。

**返し：**誰が何をしたカードは紙に記録できる。場面の順に並べ、自分の言葉で出来事を説明する。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)イの評価の代わりにしない。

**指摘8：**時間が足りないとき、どこを残すか。

**返し：**総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)イで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

**指摘9：**約束を守ることをまとめにするのか。

**返し：**C(1)イのねらいは内容の大体を捉えることにある。題名から道徳的な結論を先に決めず、自分で書かれた人物の行動を順に確かめる。

**指摘 10：**振り返りを感想だけにしないためには。

**返し：**「この場面では、誰が何をしていますか。前の場面と比べると、どんなことが変わりましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)イに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

